

焼岳の火山活動解説資料（平成 28 年 12 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図 1、図 4）

北陸地方整備局が設置している焼岳北監視カメラ（焼岳の北北西約 4 km）による観測では、北峰付近の噴気孔からの噴気の高さは概ね 50m 以下で経過しています。また、同局設置の焼岳南西斜面監視カメラ（焼岳の西南西約 2.5km）による観測では、岩坪谷上部の噴気孔からの噴気の高さは概ね 90m 以下で経過しています。その他の地域で噴気は認められません。

・ 地震や微動の発生状況（図 2 - 、図 3）

火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。
火山性微動は観測されていません。

・ 地殻変動の状況（図 2 - ～、図 4）

GNSS¹⁾ 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。



図 1 焼岳 山頂部及び南西斜面の状況

（左図：12 月 12 日 焼岳北監視カメラ、右図：12 月 12 日 焼岳南西斜面監視カメラ）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 29 年 1 月分）は平成 29 年 2 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』『2 万 5 千分 1 地形図』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

【計数基準の変遷】開 始	2010 年 8 月 2 日～2010 年 9 月 21 日	中尾振幅 0.5 $\mu\text{m/s}$ 以上、S - P 2 秒以内
変 更	2010 年 9 月 22 日～2011 年 3 月 10 日	中尾振幅 0.5 $\mu\text{m/s}$ 以上、S - P 1 秒以内
変 更	2011 年 3 月 11 日～2013 年 9 月 30 日	中尾振幅 3.0 $\mu\text{m/s}$ 以上、S - P 1 秒以内
変 更	2013 年 10 月 1 日～	中尾振幅 2.0 $\mu\text{m/s}$ 以上、S - P 1 秒以内

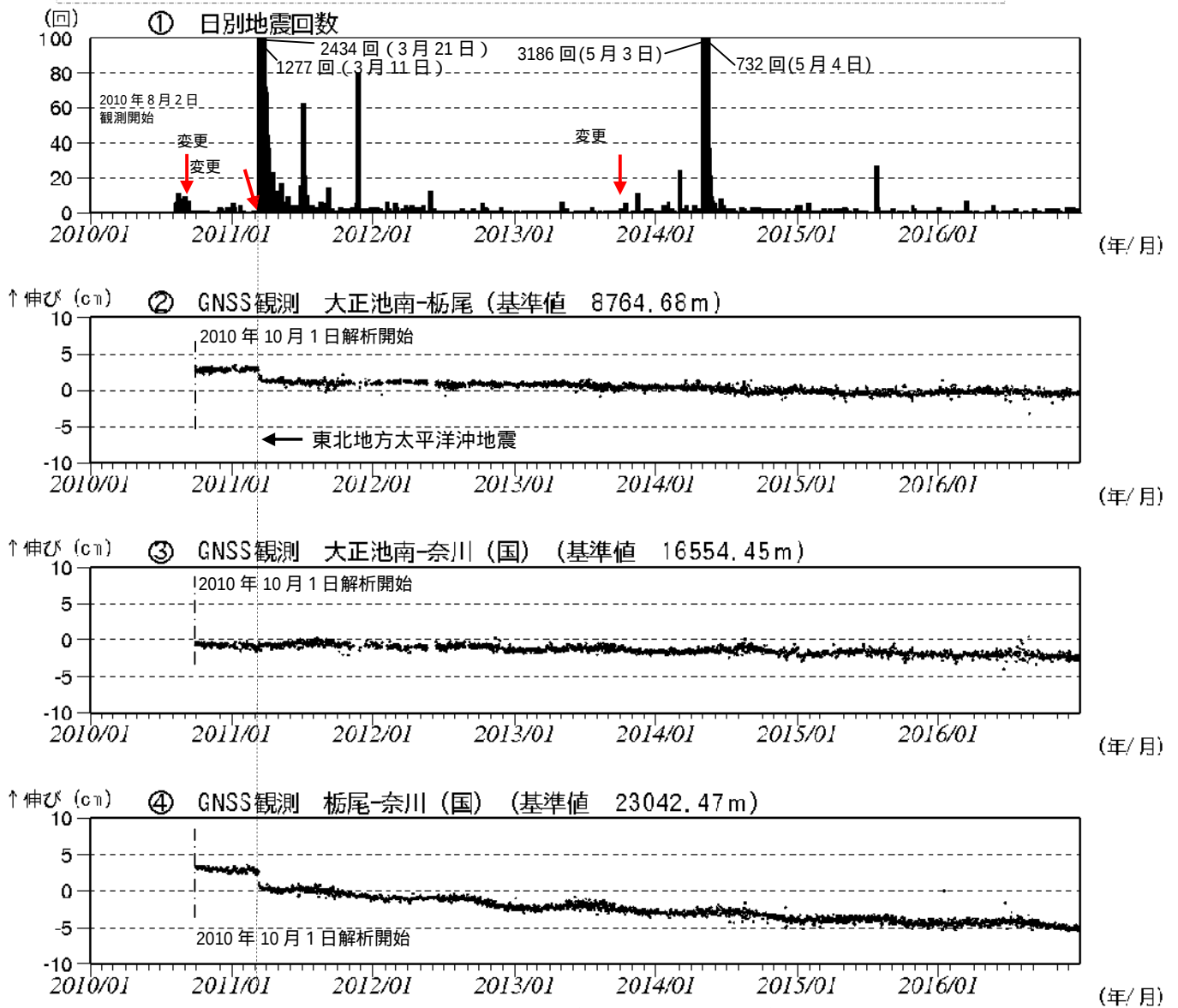


図 2 焼岳 火山活動経過図 (2010年 8 月 2 日～2016年12月31日)

焼岳周辺の日別地震回数

2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震以降、焼岳周辺で地震活動が活発な状況となりましたが、その後、地震活動は低下しました。2014 年 5 月 3 日から 4 日にかけてと 2015 年 7 月 24 日に一時的に活発化した地震活動は、その後低下しています。

～ GNSS 連続観測による基線長変化 (国): 国土地理院

2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、ステップ状の変化がみられます。

～ は図 4 の GNSS 基線 ～ に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。

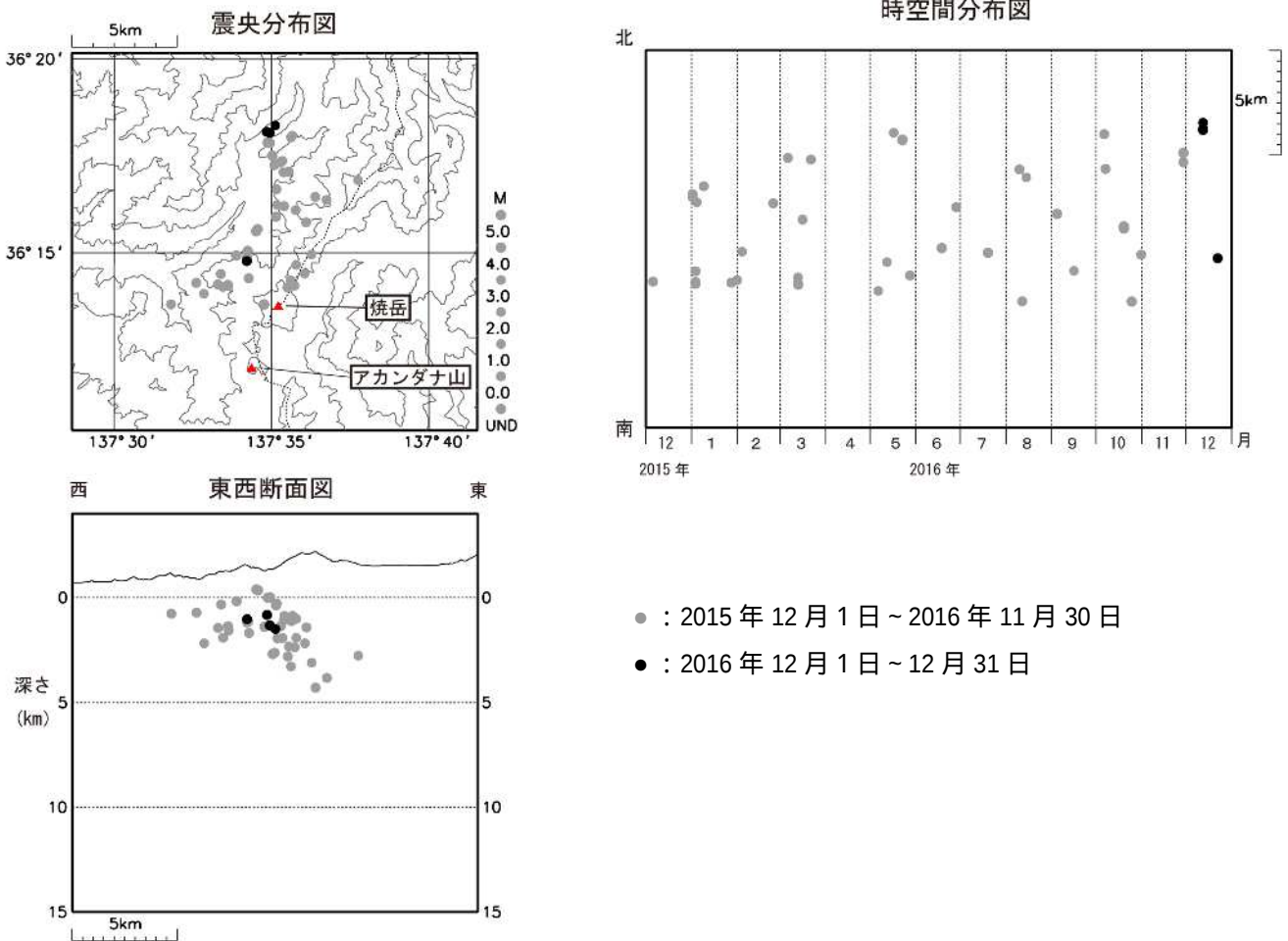


図 3 焼岳 震源分布図（2015 年 12 月 1 日 ~ 2016 年 12 月 31 日）
 ・火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。

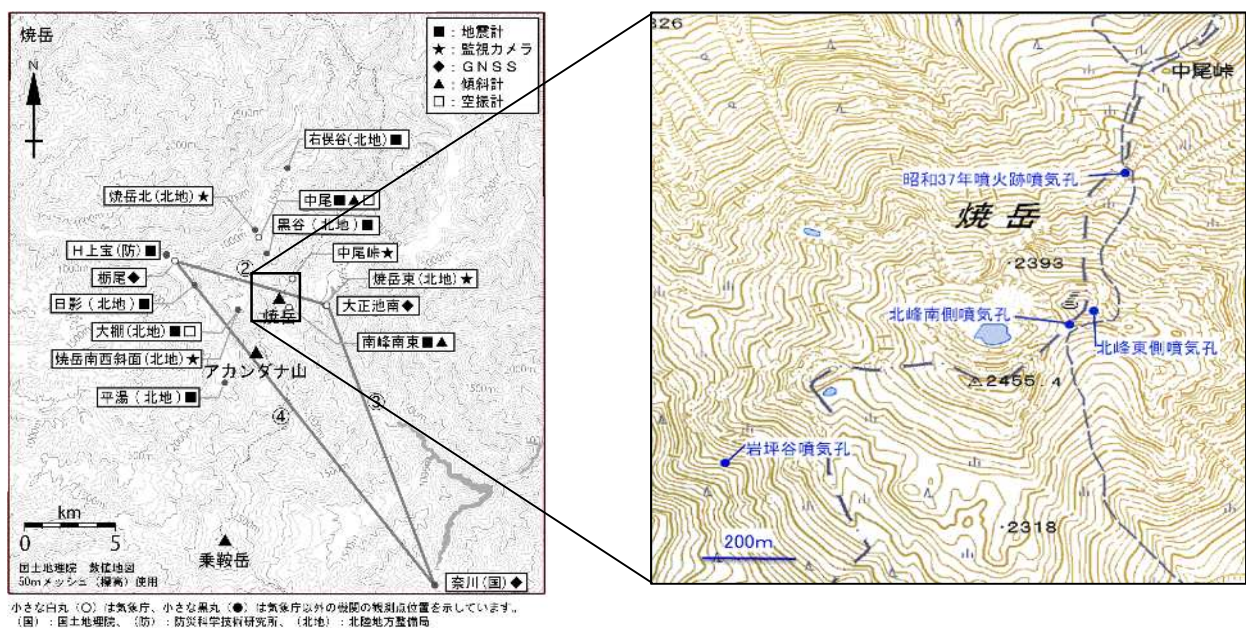


図 4 焼岳 観測点配置及び噴気孔位置
 ・GNS 基線 ~ は図 2 の ~ に対応しています。
 南峰南東、中尾峠：12 月 1 日運用開始